

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

グローバル社会を生きぬく

1 ネットワーク 2 フットワーク 3 ヘッドワーク

3つのワークを大切にし、実行できる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と授業改善。新学習指導要領や高大接続改革及びSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取組み推進。

(1) ノートパソコン等の端末を授業で活用し、生徒の学習に対する意欲・関心や情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。

(2) グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。

(3) 生徒の進路実現を支援するための進路講演会及び保護者説明会を充実するなど、生徒一人ひとりが個々に応じた進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導をおこなう。

(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニング、端末を活用した次世代型授業、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。教職員研修や生徒授業アンケート結果の活用などにより組織的な授業力向上をめざす。

(5) 「桜塚の総合的な探究の時間」をまとめていく。3年間を通じた系統的な取組みにより、自身の将来に向けた展望を描くとともに、社会に出てからも活用できる知識・技能や興味・関心を身につける。自らが主体性を持ち、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。

(6) 新学習指導要領の趣旨をしっかりと踏まえ、観点別学習評価を進める。

(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数が増える取組みを推進する。

(8) 専門コース制を生かし、生徒の学力の効果的な向上による第一希望の進路実現を図る。粘り強く進路実現に向かうことにより、現浪合わせての国公立大学合格者を増やし、令和7年には25名合格を目標とする。(R2 17名、R3 19名 R4 16名)

(9) 教育産業と連携のもと放課後を活用した講習を発展させ、より専門的な知識の習得に向け主体的に取り組む態度を育成する。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価(R2 60.5% R3 74.9% R4 82.0%)を向上させ、令和7年度には85%とする。

2. 人間力をつけること、規律、安全安心について

(1) 道徳教育の推進を図る。人間関係構築の第一歩として、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。規則を守り、礼儀に気をつける。

(2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。

(3) 人権問題に関する正しい知識・理解を深め、様々な人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。

(4) 体育祭・文化祭等の行事に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに協力し、行事や部活動を通して、生徒に達成感や自尊感情を育む。

※ 年間延べ遅刻者数(R2 2,093人 R3 1,832人 R4 3,296人)を減らし、令和7年度には、延べ1,500人以下とする。

3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

(1) OB・OG、豊中市役所の各機関、大学、社会福祉協議会、商工会議所、国際交流協会等の機関との連携と支援を生かした取組みを展開する。

(2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。平成30年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。

(3) 広報活動を積極的に行う。Web Pageを更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画。

※ 地域連携に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価(R2 - R3 - R4 63.0%)を増やし、令和6年度には、70%とする。

(一)は、コロナの影響により評価を実施せず

4. グローバルリーダーの育成

(1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。

(2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。

※ 国際交流活動等に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価(R2 - R3 - R4 70.0%)を増やし、令和7年度には、85%とする。

(一)は、コロナの影響により評価を実施せず

5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化

(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。

(2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。

(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。

(4) 分掌に位置付けられない組織「SPT(Sakura Project Team)」の取組みを推進する。

(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。

(6) 働き方改革の継続、大阪府運動部活動、文化部活動等在り方方針等を踏まえる。夏季及び冬期休業中に学校閉庁日の実施。

ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。時間外勤務時間月平均45時間未満をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒対象教育自己診断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年順調に上昇している肯定率が多く項目においてさらに向上した。肯定率の平均は令和2年度75.3%、令和3年度79.3%、令和4年度82.9%、そして今年度が83.2%であった。特に、「学校へ行くのが楽しい」と回答した生徒が85.7%＜(R4 83.4% R3 82.9%)＞と向上したことは嬉しい結果である。 ・授業に関する項目は、引き続き高い肯定率を示した。「授業がわかり易い」(82.0%)＜(R4 80.2% R3 74.9%)＞はさらに向上し、「授業は学力向上に役立っている」(84.4%)＜(R4 84.6% R3 81.2%)＞、「教え方に工夫をしている先生が多い」(80.9%)＜(R4 80.4% R3 73.8%)＞、「授業では自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(86.9%)＜(R4 87.6% R3 78.5%)＞と、軒並み高い肯定率を示した。 また、他の設問と比べてどちらかというと肯定率が低い、「授業でわからないことについて質問しやすい」(72.5%)＜(R4 70.1% R3 65.3%)＞も徐々に向上してきている。個別最適な学びが進められる中、さらなる向上をめざしたい。さらに、観点別評価が導入される中、「評価の仕方や基準について、事前に知らされている。」(92.2%)＜(R4 87.9% R3 81.6%)＞、「学習の評価については納得できる。」(90.6%)＜(R4 89.9% R3 87.5%)＞と、評価に対する肯定率は極めて高く、先生方による丁寧な説明、公平感のある評価に生徒が満足していることが伺える。 今後も、組織的な取組みを通して、授業力を高めていきたい。来年度から新たなコース制を導入し、「より高い学習にチャレンジする」といった取組みを開始する。大きな成果をあげるためには教員個々の授業力向上だけに留まらず、教科を軸としたカリキュラム、シラバスの精選が必須である。今後も、自主的、主体的な研修を通し、中長期的なビジョンのもと推進していきたい。 ・「先生は協力して生徒指導にあたっている」(88.6%)＜(R4 87.4% R3 82.6%)＞、「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」(82.2%)＜(R4 80.1% R3 78.1%)＞と、生徒指導に関する肯定率は4年連続で向上した。日頃から、先生方が一枚岩となりながら丁寧に指導をしている姿、そして生徒の成長を願う思いが生徒にも伝わっていることが伺える。生徒や友人関係が上手く構築できず精神的に不安定な生徒が多い状況の中、今後も担任団を中心に家庭と連携を取りながら、組織的な生徒指導を推進していきたい。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」(93.9%)＜(R4 93.5% R3 92.5%)＞は3年連続で極めて高い肯定率を示した。HRや探究の時間を活用したキャリア教育の成果と言える。 ・「人権について学ぶ機会がある」(88.9%)＜(R4 87.4% R3 85.6%)＞も高い肯定率を維持することができた。生徒全てが、安全で安心した学校生活を送ることができる学校であるためには、「自己肯定・他者理解」両面からの人権教育は必要不可欠である。「部落差別問題」などの不易の課題から、「性的マイノリティー」などといった日々情報がリニューアルされるような課題まで、多岐にわたる人権教育をおこなっていくことは高校教育の根幹のひとつである。 ・今年度の重点課題であった「担任の先生以外に相談できる先生がいる」(65.7%)＜(R4 62.3% R3 59.0%)＞は、徐々にではあるが、順調に向上している。今年度からクラス運営に副担任が関わる取組みを開始したが、来年度以降もさらなる向上に向けて、生徒に対する教員の関わりや寄り添いを深めていきたい。 ・「先生は、いじめや相談事について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(89.7%)＜(R4 85.6% R3 85.3%)＞は、さらに高い肯定率を示した。進む生徒の多様化に加え、コロナの影響により精神的な課題を抱える生徒が多く存在する中、安心安全な学校生活を送れる環境づくりは大きな課題である。引き続き、組織対応を軸にしながら、「生徒相談体制」や「いじめ防止に向けた組織力」のアップを図っていきたい。 ・28項目中唯一2年間連続で肯定率が下がったのは、自分は部活動に積極的に取り組んでいる(72.9%)＜(R4 76.5% R3 79.7%)＞であった。少なからずコロナの影響があり、中学校で部活をやめた生徒も多いのではないかと想定される。生徒指導部(自治会担当)が中心となり、活性化を図れなければならない。 	<p>【第一回】＜6月9日開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校での自転車の危険運転が散見される。自転車指導の充実が必要である。 ・同窓会からの支援が必要であることがあれば、ぜひ申し出て欲しい。 ・豊中市地域教育協議会では、豊中まつりにて、司会、演奏など、中学校のチアチームとコラボレーションを計画している。コロナでストップしていた連携も積極的に復活させたい。ぜひとも、連携をお願いする。 ・近場の大学に行きたい生徒が多いかもしれないが、地方も含めて国公立大学への進学を視野に入れるよう、生徒保護者の意識改革を進める必要がある。 <p>【第二回】＜10月12日開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校風なのか挨拶してくれる生徒が多く良いと思う。桜塚高校の話ではないが、最近では服装の乱れや挨拶をしない生徒が目立つ学校もある。きちんとやるのが恥ずかしいと思う年代だと思うが、そうではないと言うことをしっかりと伝えていくべき。 ・生徒が挨拶を自然としてくれる関係性を教員側が構築することが大事。 ・コンビニショップは、ポイントカードもあれば良いと思う。地域の人利用も考えてはどうか。 ・現金では行列ができて、休み時間内に会計が終わらない。電子決済の導入を検討してはどうか。 ・儲かればそのほかのサービスが提供できる ・授業アンケートを見ると生徒からの評価が高い。引き続きよろしくお願ひします。 ・駅からの道中にコンビニがあるので学校内のコンビニで買うメリットを考えないといけない。 ・料金が安いほうが買いやすい。クラブの帰りに「半額セール」「タイムセール」してみるとかはどうか。 ・コンビニの愛称の募集やフォームを利用して「おいてほしいものは何か」をアンケートしてはどうか。これは他のコンビニにはない特色と言える。 ・他にない「桜塚オリジナル」の文房具を置くのはどうか。 ・一般のコンビニと違う。制約が多いので難しいと思うが、生徒にとってメリットがないと定着しない。生徒にとって魅力的なものになるように努力してもらいたい。 <p>【第三回】＜1月25日開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の要求水準が上がってきている中で、桜塚の先生方の努力で成果が出ていることが卒業生としてもうれしい。 ・地域連携などは、働き方改革の影響もあってお互いの時間の枠内で連携を組めない事象も出てきている。 ・遅刻指導については、怠惰とだけ捉えることが難しく、ヤングケアラーや起立性調節障がいといった背景もある。数値目標達成に向けた指導というより、個々の状況を見極めて対処する必要がある。 ・部活動の参加についてはどこの学校も減少傾向にある。コロナの影響もあるが、地域のクラブチーム、プロ傘下のジュニアチームなど選択肢が増えた。また、この2～3年で習い事も増えて、中学校でも部活動で引っ張ることは難しくなっている。 ・地域連携の取組みについて、行なっていることを知らない生徒や保護者がいるのではないか。ニュースレターでの発信やホームページでのお知らせでも難しいのか。知っていることは大切なので、広報板を使うなど嫌でも目に触れる機会を持つ等の効果的な広報の方法を探す必要がある。 ・生徒指導について、中学校でもある程度許容しながら指導しているが、来年度より豊中市では小中一貫義務教育学校が新設・開校されるにあたり、頭髪や服装指導について小中の差をどう埋めるかが課題である。 ・中学校から高校への進路決定においても、早く決めたい保護者が増えている様子もあり、公立高校入試まで待てない保護者がいる。今後、授業料無償化の影響によってどう変化するか注視しなければならない。 ・大学入試が変われば、高校の授業が変わる。そして高校入試が変われば、中学の授業が変わるのではないか。 ・桜塚高校にあこがれている中学生は多い。この会議であったような様々な取組みをして、中学生たちを刺激してくれていることが大変ありがたい。今後も活発な取組みを続けてもらいたい。

<今後の課題として>

・国際交流 (69.2%) <R4 70.0%>、地域連携 (58.3%) <R4 63.0%>に関する肯定率は昨年度より低下した。来年度に向けた重点課題といえる。本校の特色である部分でもあるので、授業や部活動を通し活性化を図りたい。

【保護者対象教育自己診断】

- ・24項目中16項目の肯定率がアップした。また、全設問の肯定率の平均も82.9% (R4 82.7% R3 80.1%) に向上した。
- ・「桜塚高校には他の学校にない良さ(特色)がある」(82.3%) <R4 79.8% R3 76.0%>はここ数年順調に増加している。8割を超える結果は教職員の元気に繋がる結果である。授業料無償化が導入される中、学校の特色づくりは喫緊の課題である。引き続き、魅力ある教育活動を進めていきたい。
- ・「桜塚高校の教育課程(カリキュラム)は生徒の進路保障・自己実現につながっている。」(84.0%) <R4 79.8% R3 76.3%>が大きく向上した。改編したGSコースを軸に、引き続き第1志望の進路実現を果たすための魅力あるカリキュラムを編成していきたい。
- ・「桜塚高校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている」(86.4%) <R4 85.0% R3 83.7%>、
「桜塚高校は、進路に関する情報提供に努力している」(84.9%) <R4 84.3% R3 79.1%>と進路指導に関する肯定率は高いレベルで順調に向上している。オンラインでの開催(オンデマンドの配信)も含め、進路説明会を丁寧に行う等、進路指導部を中心とした丁寧な取り組みの成果と言える。
- ・「桜塚高校のいろんな教育活動を通して子どもの成長を実感している」(89.2%) <R4 87.2% R3 84.4%>
が極めて高い結果になったことは、本校の教育活動がニーズに合致していることを示す嬉しい結果である。
- ・「桜塚高校はいじめや相談事について子どもが困っているときことがあれば真剣に対応してくれる」(84.5%) <R4 84.2% R3 81.3%>の肯定率が順調に向上している。教員による生徒への寄り添いが保護者に伝わっている。社会に変化とともに生徒の多様化が進む中、またコロナ渦により不安定な生徒が増える中、引き続き、生徒が安心安全に通える学校づくりをめざしていきたい。
- ・「子どもは文化祭・体育祭等の学校行事に積極的に参加している」(92.6%) <R4 90.5% R3 —>
は極めて高い肯定率を示した。「子どもは家庭でよく話をする。」(82.9%) <R4 77.3% R3 76.7%>、
「子どもの様子は、よく把握している。」(86.9%) <R4 81.1% R3 77.4%>も順調に登場しており、学校で行事を楽しむ生徒の様子が保護者に伝わっているのではないだろうか。

<今後の課題として>

- ・最も低かったのは「桜塚高校の施設・設備は学習環境の面で満足できる」(54.0%) <R4 59.4% R3 56.5%>の肯定率であった。特に自由記述ではトイレの改装について要望が多く見られた。学校サイドでの改善は難しい。引き続き、教育庁に現状を伝えていきたい。

【教職員対象教育自己診断】

母数が少ないため有意差が何ポイントであるかという判断は難しいが、昨年度と比べ(5ポイント以上)大きく増加・減少した項目に着目し総括することとする。

- ・「校則が生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかどうか、検討を加えている」(81.3%) <(R4 73.6% R3 78.3%)>が、昨年度から7.7ポイント上がった。生徒を取り巻く環境が大きく変化する中、令和4年12月に「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂され、課題対応の側面のみならず生徒の発達を支えるような生徒指導の側面が求められている。今後も人権尊重のもと、生徒自身はその根拠や影響を考え課題を自ら解決する力の育成に向け、生徒指導を実践していきたい。
- ・「生徒指導において家庭と緊密な連携ができていない」(87.7%) <R4 98.0% R3 97.9%>が大きく下がった。
決して低い値ではないが残念なことである。今後も「できること、できないこと」という限界設定をしながら学校側の考えや目的を丁寧に説明し理解を求め、保護者との連携を深めていきたい。
「生徒自治会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している」(86.4%) <R4 75.0% R

3 82.6%>は大きく向上した。これは、生徒の行事に関する満足度にも繋がっている。引き続き、生徒の主体的な活動をベースとした行事運営を通して、クリエイティブな力の育成を図っていききたい。

・「本校の校内研修は、質・量ともに充実している」(80.7%)<R4 75.0% R3 82.6%>が昨年度から5.7ポイント向上し、一昨年度並みに回復した。今後も「効果(満足感) > 負担」が実感できる研修に向け、内容を精選しながら「為になり、今後に生かすことのできる研修」や「自発的な研修」を進めていくことが大切である。

・「桜塚高校では生徒同士や教職員相互、生徒と教職員間で挨拶が自然に交わされている。また、外来者に対してもきちんと挨拶ができていいる。」(71.2%)<R4 82.7% R3 80.4%>が下がった。教員相互の信頼関係、教員と生徒の信頼関係、生徒同士の信頼関係が挨拶の根幹である。教員同士、そして教員から生徒に対し心のこもった挨拶が自然に交わされ、温かい空気が溢れ「生徒の心が育つ」学校をめざしていききたい。

<今後の課題として>

・学校が抱える課題の複雑多様化や新陳代謝が進む中、「オール学校」での課題解決や改革をおこなっていく必要がある。そのためには、教科や分掌を横断した組織力アップに向け、首席が軸となりながら、風通しの良い職場環境を整えていくことが必須である。その意味では、「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」(63.2%)<R4 73.1% R3 73.9%>が下がったことは残念であり、今後の大きな課題である。改善に向けて、まずは運営委員会の場で学年主任と分掌長が情報共有および協力・連携を行うことが大切である。同時に、担任の分掌係が責任を持ち、学年主任と分掌長のコーディネートのもと担任会や分掌会で情報を発信、全体で共有していかななくてはならない。

教育の課題が多様化し、教員個々あるいは一部のセクションだけでは解決できない課題が山積している。

「チーム桜塚」という合言葉のもと、学年の繋がり、分掌の繋がり、教科の繋がりと言うまでもなく、それぞれを横断して繋がる信頼関係に基づいた有機的な組織を構築していききたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 学 ぶ 力 を つ け る	<p>1. 確かな学力の育成と授業改善。</p> <p>(1) ノートパソコン等端末活用授業で、意欲・関心や情報活用能力を高める。</p> <p>(2) 英語の4技能を高める。</p> <p>(3) 生徒の進路実現を支援するため、きめ細かい進路指導をおこなう。</p> <p>(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、生徒授業アンケートも活用し、授業改善を図る。</p> <p>(5) 桜塚の総合的な探究の時間をまとめていく。</p> <p>(6) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた、観点別学習評価を進める</p> <p>(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数増の取組み推進。</p> <p>(8) 専門コース制を軸に、学力アップを図り、国公立大学や難関大学への合格者を増やす。</p> <p>(9) 放課後を活用した講習を発展させ、専門的知識の習得に主体的に取り組む態度を育成する。</p>	<p>新学習指導要領、高大接続改革を踏まえ、「学びに向かう力・人間性」「基礎学力の定着・活用」をはかる。</p> <p>(1) タブレットを活用した授業形態に取り組む。「調べ学習」、「小テスト」、「プレゼンテーション」といった活動を通して、生徒の主体的かつ協働的な学びを創出する。さらに、教育産業や教員による学習動画を活用することにより、学びなおしや基礎固めのサポートをおこなう。</p> <p>(2) 英語の授業における指導や放課後を活用し外部教育産業と連携した「桜塾」を通して、英検を推奨するとともに、検定合格率を上げる。</p> <p>(3) 進路講演会、保護者説明会を充実させる。進路ホームルームを活用し、多様な生徒個々の第1希望進路の実現に向け、きめ細かい進路指導をおこなう。</p> <p>(4) ICT機器の活用や授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。授業力向上等検討委員会構成員に、10年経験者研修受講者及びアドバンスセミナー受講者も含め効果的にすすめる。教員相互の授業見学や生徒授業アンケートの結果を効果的に活用するためにも、教科で十分な協議ができる時間を確保する。</p> <p>(5) 地域や企業等との連携や教育産業による分析システムを活用する等、幅広い取組みを通して総合的な探究の時間の充実を図る。</p> <p>(6) 観点別評価が導入されることに伴い、生徒に対して評価の観点を明確に示すとともに、適正な評価をおこなう。</p> <p>(7) パソコン等の活用を通して図書館利用を促進し、情報活用能力を育成する。</p> <p>(8) 専門コースを生かし、学力の更なる効果的な向上を図るとともに、第1希望の進路実現に向けて粘り強く努力をする生徒を育成する。</p> <p>(9) 英語検定合格に向けた5:30以降の講習「桜塾」を3クール制にするなど、検定合格に向けて効果的な内容に改編し、参加生徒を増やす。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「タブレットを授業・ホームルームで活用する機会がある」肯定率95%維持。[97.6%] 教職員向け学校教育自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクトを活用している」肯定率100%維持[100%]</p> <p>(2) 英検2級以上120名合格、準2級200名合格。[2級以上87名、準2級154名]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」肯定率85%維持[89.9%]</p> <p>(4) 生徒向け学校教育自己診断「授業では自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」肯定率85%維持[87.9%] 教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」肯定率90%維持。[92.3%]</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率90%維持。[93.5%]</p> <p>(6) 生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に示されている。」肯定率85%維持[87.9%]</p> <p>(7) 図書室の利用者数3,000名以上[1,940名]</p> <p>(8) 国公立大学の合格者20名以上[16名]</p> <p>(9) 講習受講者200名以上。[191名]</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「ノートパソコンを授業・ホームルームで活用する機会がある」97.5%、教職員向け学校教育自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクトを活用している」97.9%、共に成果目標には達しなかったが満足できる結果であった。(○) 今後も1人1台端末活用法に関する研修や授業相互見学を積極的に進め、「双方向的な活用」「協働的な活用」「個別最適な学びに向けた活用」等効果的活用に向けブラッシュアップしていく。(○)</p> <p>(2) 英検合格者2級103名、準2級174名。12月段階で、ほぼ目標値に近づいた。2月実施の結果を年度内に把握することは難しいため最終的にもう少し増加する見込みである。概ね目標は達成できた。(○)</p> <p>(3) 過去に生徒の肯定的評価が非常に高かった講師を招き、事前打ち合わせをしっかりと行った上で生徒向け進路講演会を1年生9月、2年生11月に実施。保護者向け講演会は1年生5月、2年生12月に実施。講演会後のアンケートでは肯定的な回答が多数であった。また、教員研修で好評であった講師を招き、2年生保護者向け講演会を12月に実施した。さらに、全学年生徒を対象にして、進学にかかる費用や大学入試の概要、日程などについての進路ホームルームを実施した。生徒向け学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」肯定率は89.9%と目標を達成した。(○)</p> <p>(4) LGH公開授業、授業相互見学、教科別の授業力向上に向けた研修および自主的な研修、さらに10年経験者・初任者研修等も含めた様々な機会を利用して、授業力向上と授業改善に取り組んだ。生徒向け学校教育自己診断「授業では自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」の肯定率は86.9%と指標を上回った。また、教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」の肯定率は87.9%と概ね目標を達成した(○)</p> <p>(5) 各学年の係を中心とする組織的な取組みのもと、地域や企業等との連携や教育産業を活用した課題の実施を含む幅広い取組みが行えた。生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率は93.9%と目標を達成した。(○)</p> <p>(6) 教員側の丁寧な説明を組織的に行ったことにより、生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に示されている。」の肯定的評価92.2%となり、目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>(7) 今年度は毎週火曜と職員会議のある木曜の放課後が休館日となり昨年度より開館時間は減ったが、利用者アンケートや学年Classroomに新規入荷本の配信を行う等、図書館からの発信等の取組みを行った結果、昨年度同時期の110%まで来館者が増えた。しかし、2,065名と目標を達成することはできなかった。(△)</p> <p>(8) 国公立大学の合格者は20名。目標を達成した。(○)</p> <p>(9) 年間通しての受講スタイルを、英検の試験日に合わせた3ターム制に変更して実施した。十分な学習効果を得るための日程や時間設定をすることができた。合計151名が目標とする級の合格に向けて受講したが、目標には届かなかった(△)</p>

府立桜塚高等学校

<p>2 人間力をつける、規律、安全安心について</p>	<p>2. 人間力をつける</p> <p>(1) 道徳教育の推進。「あいさつ運動」をすると共に遅刻数の減少。規律、礼儀について</p> <p>(2) 教育相談体制の充実。自己肯定感を大切にする。</p> <p>(3) 人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。</p> <p>(4) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 丁寧で組織的な生活指導により、基本的生活習慣の確立や交通ルールを初めとする社会規範の醸成、学習規律の向上をはかる。また、人間関係構築の基本である挨拶の習慣を身につけるための取組みを組織的にこなす。</p> <p>(2) 「生徒一人ひとりを大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。</p> <p>(3) 人権 HR や講演会を初めとする様々な場面を通じ、性別、障がい、国籍等による差別、SNSによる人権侵害、同和問題などあらゆる人権問題に関する知識・理解を高める教育を推進する。</p> <p>(4) 生徒が主体的に運営する部活動や、自治会活動等を創出する。さまざまな活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」肯定率 80%維持。[80.1%] 「学校では挨拶が自然に交わされている。」肯定率 80%維持。[80.6%] 年間遅刻数 2,000 以下。[3,296]</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断「担任の先生以外に相談できる先生がいる」肯定率 65%以上。[62.3%]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定率 85%維持。[87.4%]</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」肯定率 90%以上。[88.4%]</p>	<p>(1) 生徒指導部を中心とする粘り強い指導の結果、生徒向け学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」の肯定率は 82.2%とさらに向上し、「学校では挨拶が自然に交わされている。」の肯定率も 80.3%と目標を達成した。(◎) 年間遅刻数は 2,791、昨年度より減少したが目標を達成できなかった。(△)</p> <p>(2) 生徒相談・いじめについてのアンケートを実施し、相談窓口を周知する等教育相談体制を充実させた。また SHR 等の一部担任業務を副担任が分担しクラス生徒に関わるようにした。生徒向け学校教育自己診断「担任の先生以外に相談できる先生がいる」の肯定率は 65.7%となり、目標を達成することができた。(○)</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」の肯定率は 88.9%と目標を達成した。今後も「自己肯定・他者理解両面からの人権教育」をテーマに「部落差別問題」などの不易の課題から、「性的マイノリティー」などといった日々情報がリニューアルされるような課題について、引き続き取り組んでいく。また、人権についての知識だけでなく人間関係を構築するための実践について考えていきたい。(○)</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断の「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」肯定率は 84.7%に留まった。今後、生徒指導部自治会担当を中心に、生徒にとって魅力ある行事をどう創出していくかが課題である。(△)</p>
<p>3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する</p>	<p>3. 地域の信頼される学校を促進・広報する</p> <p>(1) 豊中市役所等の公的機関、大学等との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 岩手県立大槌高等学校との連携事業の発展。「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) Web Page を活用した広報活動を積極的に行う。生徒による更新も推進する。</p>	<p>(1) イベントにクラブが出演するなど、地域との連携を深化する。大学との連携授業を通して生徒の自己実現を支援する。(OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を進展させ、持続的な支援や交流を行う。H30 年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) Web Page の画面を見やすくするとともに、生徒による「部活動・自治会ブログ」の更新を推進し、学校の元気な様子を内外に発信する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断肯定率「豊中市等のイベントにさまざまなクラブが参加するなど地域連携を行っている。」肯定率 65%以上 [63.0%]</p> <p>(2) 訪問やオンラインによる年 1 回以上の相互交流を実施。[2 回]</p> <p>(3) 教職員向け学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」肯定率 90%維持 [90.4%]</p>	<p>(1) 豊中市等との連携は、自治会やクラブ単位での交流を実施した。また、外部講師招聘を通じた他大学との連携もコロナ前の状態で再開した。しかし、生徒向け学校教育自己診断「授業や部活動等で地域の方々と交流する機会がある。」肯定率は 58.3%と目標に届くことができなかった。(△)</p> <p>(2) 大槌高校の先生方が来校され、両校教員による対面形式での交流を実施(1回)した。また、1月には岩手県立大槌高校生徒と本校自治会生徒が連携して能登半島地震被災地への募金活動を実施した。(○)</p> <p>(3) 本校の教育活動を積極的にアップするよう心掛けたが、教職員向け学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」肯定率は 86.2%と目標を達成することができなかった。引き続き、効果的な広報活動を進めていきたい。(△)</p>
<p>4. グローバルリーダーの育成</p>	<p>4. グローバルリーダー育成</p> <p>(1) 国際社会で通用する人材の育成を目的とした国際交流を積極的に進める。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成に努める。専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。</p>	<p>(1) 生徒への情報提供、ニーズ把握等を積極的におこない、忠南外国語高校との姉妹校協定を生かした取組みを初めとする海外研修・留学(長期・短期)・海外進学を推進する。</p> <p>(2) 「課題研究」の内容の再検討と更なる充実。「英語理解」におけるネイティブを含む大学講師の授業を依頼する。「第二外国語」「国際理解」など専門科目の充実</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「留学生や国際交流等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある」肯定率 75%以上。[70.0%]</p> <p>(2) 授業評価における生徒意識「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている」と「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」の項目、2回の平均値 3.4 以上 [3.3]</p>	<p>(1) 5月に韓国の忠南外国語高校が(令和元年以来に)来校した。韓国や台湾の姉妹校との複数回のオンライン交流を実施した。オーストリア、ドイツからの留学生 2 名を受け入れた。生徒向け学校教育自己診断「留学生や国際交流等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある。」肯定率 69.2%と指標に届かなかったが、2019 年以来実施できていなかった海外研修(韓国異文化理解研修)を実施することができた。来年度も韓国の姉妹校が来校予定であり、コロナ前の活発な国際交流の復活に向けて取組みを進めていきたい。(△)</p> <p>(2) 「国際理解」で大学教員を招き 2 度の高大連携授業を実施した。また、地域の専門学校と連携し、アジア各国の留学生と交流を行った。「英語理解」におけるネイティブを含む大学講師の授業は実施しなかった。専門科目(「国際理解」「韓国語」「中国語」「課題研究」)における評価指標の平均値は 3.6 と目標を達成することができた。(○)</p>

府立桜塚高等学校

<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p>	<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p> <p>(1) 全・定併置校の特色を活かした取組み。</p> <p>(2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。</p> <p>(3) 運営委員会メンバーを中心に、分掌・教科のセクショナルリズムにとらわれることなく、本校教育活動について教職員が日常的に話し合える雰囲気醸成する。</p> <p>(4) 分掌に位置付けられない組織 (Sakura Project Team) の取組みを推進させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革による、教職員の健康管理を推進する。</p>	<p>(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。</p> <p>(2) 学習指導要領改訂に伴う教授法や評価法等の改革に対応するため、教科ごとの組織力を高める。さらに、全教職員が教科の枠を超えた広い視野で本校の教育力の向上を図る。</p> <p>(3) 首席を軸としたミドルアップ的な組織体制を構築し、運営委員会のメンバーが学校全体の立場から意見交換を行うとともに、分掌・学年の連携のもと、本校の課題に対する基本的な方向性を確立する。</p> <p>(4) 首席を軸に SPT の取組みをさらに機能させ、朝学、国際交流などといった本校の特色、魅力のアップを図る。</p> <p>(5) 教育課題の変化や多様化に対応することのできる教職員の組織的・継続的な育成に向け、校内研修を充実させる。</p> <p>(6) 部活動指導における外部指導者の積極的活用、行事の見直し、学年・分掌業務の平準化、②さらに担任に偏りがちな業務を副担任に割り振ることや、授業持ち時間の校内基準を見直すなどの取組みにより、時間外勤務削減をはかる。</p>	<p>(1) 教職員向け学校教育自己診断「全定の教職員は、同じ施設を使用するにあたり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」肯定率 65%以上。[62.2%]</p> <p>(2) 教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率 80%維持。[82.2%]</p> <p>(3) 教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」肯定率 75%以上。[74.5%]</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」肯定率 85%維持。[89.1%]</p> <p>(5) 教職員向け学校教育自己診断「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」肯定率 80%維持。[82.6%]</p> <p>(6) 月平均残業時間 80 時間以上の教員をなくす。[1名] ストレスチェックの全校平均値 100 以下を維持。[95]</p>	<p>(1) 必要に応じて全定管理職会議および担当者連絡会を開催し、協力関係を構築した。教職員向け学校教育自己診断「全定の教職員は、同じ施設を使用するにあたり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」の肯定率は 75.4%と目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>(2) カリキュラム委員会および授業力向上等検討委員会を中心に、全体の動きを確認するとともに、教科ごとの組織力をアップし、新カリ、観点別評価の本格実施に際し、教科が一枚岩となって教科教育を推進した。しかし、教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率は 77.9%と目標に届かなかった。(△)</p> <p>(3) 分掌の効率的な運営方法の模索、および業務の平準化について、部長を中心に、協力体制のもと有機的な校務を推進した。また運営委員会の場では、連絡および意見交換を行い、学校運営の基本的な方向性を確認した。しかし、教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ有機的に機能している。」の肯定率は 63.2%と目標に届かなかった。(△)</p> <p>(4) 分掌・学年を中心に特色ある学校づくりに向けた取組みを推進した。教職員向け学校教育自己診断「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」の肯定率は 85%に届かなかったが 84.4%という結果を総合的に勘案すると、概ね目標を達成したと言える。さらなる魅力アップを推進したい。(○)</p> <p>(5) 「保健指導」「人権教育」「進路指導」「授業力向上」「教育相談」など様々な全体研修に加え、自主研修などを活発に行ったことにより教職員向け学校教育自己診断「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」の肯定率は 80.7%となり、目標を達成することができた。(○)</p> <p>(6) 進路関係の一部業務を担う等、副担任の協力による担任業務の負担軽減を図った。また、ノークラブデーの確実な実施と、全庁一斉退庁日の推進を行った。結果、月平均超過勤務 80 時間以上の教員はいなかった。今後も引き続き、業務の平準化に取り組んでいく。(○) ストレスチェックの全校平均値は「98」で、目標である 100 以下を維持することができた。(○)</p>
-----------------------------------	---	---	--	--